

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年7月23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874000219		
法人名	社会福祉法人 青洲会		
事業所名	グループホーム どんぐり荘	ユニット名	どんちゃん
所在地	〒300-2302 茨城県つくばみらい市狸穴1072-46		
自己評価作成日	平成21年6月15日	評価結果 市町村受理日	平成22年7月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年2月25日	評価確定日	平成22年6月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>認知症になっても、社会の一員として暮らしていける環境作りを目指して、様々な取り組みを行っています。</p> <p>併設の認知症対応型通所介護事業所との連携を図り、グループホームの入所者がデイサービスへ通う「逆デイ」など、その機能をグループホームの入所者の生活支援へ活用していく取り組みもを行っています。</p> <p>学童保育に於いては、一番必要とされていた子育て時代を考え、子供が自然に出入りする事で、継続的な生活の安定とQOLの向上を図ることを、目的として取り組み続けています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>同一法人のデイサービスと小規模多機能型居宅介護事業所が隣接し協力体制が整っている。</p> <p>地域密着型として地域に根ざして人とのふれ合いを大切に、利用者が主役で安心して安全な生活ができることを理念とし、全職員で利用者を支援している。</p> <p>医療連携体制加算により常勤看護師の支援が受けられる体制となっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者やご家族様の思いを反映し、事業所の地域に根付いてという理念に基づき当施設の理念としている。理念は職員が参加し作り上げたものであり、理念を共有しそれを目標に日々取り組んでいる。毎日の申し送りや定期ミーティングの場を活用し、方針や取り組むべき目標を具体的に伝達している。	事業所ではユニットごとに全職員で理念を作成している。 地域に根ざし利用者や家族、職員が共に喜び楽しみを分かち合い信頼できる関係を築くとともに、日々の健康を気遣いながら楽しく生活できることを理念とし玄関に掲示している。 職員は理念を共有するとともに各自名札の裏に書き日々確認し、実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者・ご家族の了承を得て、散髪時には今まで利用していた移動美容室ではなく、できるだけ近隣の美容室を訪ねて行きつけの店を作るなど、地域の人々との馴染みの関係を構築する支援を行っている。また、施設で実施する防災訓練やAED講習会の開催時には地域の方々に声をかけ、参加していただいた。	利用者は近隣の保育園児との交流を楽しみにしており、運動会などの行事に参加しているほか、園児もウサギの餌やりに事業所に来訪し利用者と交流している。 利用者と職員は散歩を兼ねて近隣の清掃活動を行っている。 事業所ではAEDを設置するとともに、地域の人々に参加を呼びかけて消防署員指導のもと講習会を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて、認知症の相談窓口を設置し、無料での相談を行っている。地域の人々に、窓口を知ってもらえるように、市の広報誌にも載せて頂き情報提供している。管理者が市と協力して認知症サポーター養成講座を開いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ホームでの取り組み等の報告をし、意見を頂いている。また介護現場の職員に会議内容を伝達し、ホームの改善や新たな取り組みに活かしている。その取り組み内容等についても、次回の運営推進会議において報告を行っている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、施設長、職員で2ヶ月に1回開催し、19回の開催実績がある。 会議では事業所や参加者からの報告とともに市から連絡を受けたり、課題について話し合い出た意見等をサービスの向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスについての報告や相談をさせていただいており、意見や助言をいただくこともある。運営推進会議にも担当者が毎回出席していただき、ホームの活動状況や取組みを積極的に伝えている。また、認知症サポーター養成においても、市と連携を取っている。	市担当者が運営推進会議に定期的に参加し、運営への意見や助言を得ている。 市主催の認知症サポーター養成講座では認知症介護アドバイザーの資格を持つ職員が講師になるなど、市と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人事業所内に身体拘束廃止委員会が設置され、権利擁護や高齢者の尊厳についての研修等にて職員の学びの機会もあり、職員全員が身体拘束をしないケアを意識し、法人全体で取り組んでいる。	法人で身体拘束廃止委員会を設置するとともに、身体拘束廃止の指針やマニュアルを作成し、研修や勉強会を実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 夜間は施錠しているが日中は玄関に施錠せず、デッキづたいに中庭に自由に入出りできるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修会や外部の研修を通して知識の習得に努めている。入浴時の身体状況のチェックも含め、ホーム一丸となり、虐待が見過ごされることのないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師を依頼し、法人内での研修会に職員が参加した。現在は、十分に活用する機会は多くないが、今後も定期的に研修の機会を設け、必要な際に適切な援助が出来るよう取り組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は内容に関して十分な知識を持っている管理者が行い、入居者やご家族の不安や疑問点を伺っている。一番の不安は入院・退所時のことであり、入居者やご家族が安心していただけるよう十分な説明を行い、了承を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やカンファレンスの際にはご意見やご要望がないか尋ねたり、言いにくい場合もある事を考慮し、玄関に意見箱を設置し、年に数回アンケートを実施している。ご要望等は職員へ伝達し必要時には改善策をご家族へ報告させて頂いている。外部機関は契約時の説明や玄関に掲示している。	職員は家族等の面会時やカンファレンス時に意見や要望を聴いているほか、運営推進会議でも家族等の代表から意見等を聴いている。各行事のアンケートを行った際に意見や要望の自由記入欄を設ける工夫をしている。重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口の連絡先を明記するとともに玄関にも掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期面接を年に2回行っているほか、親睦会を通して、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。一人ひとりの意見に耳を傾け、ケアの質の向上や運営に生かすように取り組んでいる。グループホーム会議や他部署とのリーダー会議も開催している。	管理者は年2回職員面接を行い職員の意見を聞く機会を設けている。グループホームの定例会議で職員から出た提案等を管理者が法人の運営会議で提案するなど、職員の意見や提案を運営に反映させるシステムが構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理による人材育成に努め、人事考課に反映させている。介護課業表を設置し自己決定によって目標を設定するため自主的に取り組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	法人内で年間スケジュールを作成、職員が自主的に参加をしている。勤務の都合で参加できなかった職員へも、参加職員から資料を配布したり、伝達をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	関連事業所における教育システムにより段階別の新人・現任教育・学習会を積極的に行っている。また、地域の同業者とは連絡協議会を発足し、見学会や施設の運営状況等の意見交換の場とし活用し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症高齢者1人ひとりに合わせたコミュニケーションの技法を使い分け、困っていること、不安なこと、求めていること等を理解できるよう努めている。声かけは前方から視線を合わせたり、入居者のペースに合わせてじっくりと聴く姿勢を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込みの面会時から積極的に職員から話しかけ、信頼関係が築けるよう働きかけている。窓口を管理者や担当者を中心として家族の意見や要望をしっかりと受け止めて検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があれば、相談員や管理者が訪問し、本人、家族との直接面接・調査を行い、職員全員でホームでの生活が適しているかどうか等の話し合いをしている。利用にあたっては、十分検討した上で決定している。場合によっては介護保険の申請、ケアマネージャーの介入や他のサービスの紹介なども行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前の情報を収集し支援することはもちろんだが、共に暮らしていく中で、本人に教えてもらう事や学ぶ事がとても多くある。その中で互いに支えあう関係ができています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンスの時などに、家族から本人の生活歴や生活、好んでいること等を情報収集しながら家族の思いを直接聞き出し、思いを受け止め共感することで家族との信頼関係を築き、共に入居者を支えていく関係性作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同敷地内の指定認知症対応型通所介護をご利用の友人に将棋を打ちに会いに行ったり、自宅へ時々職員と帰宅し、荷物を取りに行くなどしている。また、近隣の商店を利用することを続け、今まであった人との関係が継続できるようにしている。時々、友人が訪ねて来て、居室でお茶を飲んだり過ごすこともある。	隣接しているデイサービスを利用して一緒に過ごせるよう面会を支援し、馴染みの関係が継続できるよう努めている。 職員は利用者が近所の馴染みの店へ買物に出かけたり、自宅の様子を見に行けるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個々の性格や社交性を踏まえ、入居者同士の組み合わせや食卓の位置などを工夫し、気の合う仲間が出来るよう手伝うなど関係を深める支援をしている。共通の趣味やし好なども探ってきっかけを作り、入居者同士が楽しみなどを分かり合える関係となれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が 重度化などによって家族の希望 で退居する場合、本人や家族が困らないように関連施設との連携を図り、相談・連絡・送迎など最期まで責任を持ち実施している。また、その他の理由を含む退居後も、訪問や電話での連絡をとるなどし、本人や家族との関係を継続させている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の個々のリズム、生活歴を把握した上で1人ひとりに接している。自己決定や選択の機会を増やし、本人のペースに合わせ接している。	センター方式を活用して利用者の意向を汲み取り、暮らしの中から利用者の話を聴き思いの把握に努めている。 職員は日々の生活の中で利用者寄り添い利用者本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートパックを活用した情報収集とアセスメントを行い、普段の会話や日常の活動を意識的に行っている。	/		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式シートパックを活用して職員全員が入居者の出来ること、出来ない事を見極めている。手工芸、畑仕事、台所仕事、洗濯干し等の作業は一緒に行うか見守る程度にし、出来た事で自信につなげるよう支援している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がどうしたいのか、どうなりたいたのかを一番に考え、本人や家族を交えて話し合いを実施している。また、その思いや意見をアセスメントし、認知症に対する取り組みを交えて介護計画を作成している。本人の状況に変化があった場合は、介護計画の期間内であっても、十分な検討を行った上で新たな介護計画を作成している。	6ヶ月に1回アセスメントやモニタリングを行い、利用者や家族等、担当職員の意見を取り入れて介護計画を作成して。 心身の状態に変化が生じた場合は担当医師や常勤看護師と話し合い介護計画を見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録の他に、職員間での情報共有を目的として連絡ノートを使用している。連絡ノートはちょっとした気づき等も記載し、それをもとに話し合いの場に活用しケアの内容や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の在宅サービスから入居された方もおり、入居後も、逆デイで遊びに行ったり等、他部署の職員とも連携を図り、柔軟な対応ができています。また、ターミナルケアにおいては、家族の宿泊や規定の時間以外の面会等にも応じています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、地区の民生委員が参加して下さり、地域の自治会や商店にも顔を出し、入居者の顔や生活の様子等をこちらから発信できるように努めている。防災訓練時には、消防署に連絡し、協力をいただいている。また、近隣の商店を多く活用することで、施設の取り組みに理解を得られるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関であるクリニックの主治医が定期的な往診や臨時での受診にも対応してくれている。また、入居前の他のかかりつけ医の受診を本人やご家族が希望される場合には、綿密な連絡をとり情報を共有し入居者や家族が困らないように支援している。	利用前からのかかりつけ医への受診は家族等が付き添っている。 協力医療機関の医師の往診が月1回あり定期的な受診を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が配置されており、日常の健康管理の看護業務に留まらず、介護現場においても日々入居者との関係作りに努めていることもあり、入居者とは顔なじみの関係であり、介護職員からの相談も気軽に実施出来ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の希望を聞きながら病院との連携を図り、出来る限り早く退院できるように働きかけを行っている。退院前に家族とともに医師より治療経過や注意事項の説明を看護師が受け、受け入れ体制を整えている。また、協力病院からの担当医の往診によって連携や情報交換もスムーズに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や家族を交えてのカンファレンスの際に、重度化した場合や終末期の施設での看取り指針の説明を行い、本人や家族の意見を聞いている。介護職員が看護師や主治医とも連携を取り、本人に関わる職員全員が方針を共有している。	重度化や終末期の対応指針やターミナルケアのマニュアル、同意書などが整備されている。 利用者や家族等の意見を聴き、かかりつけ医と連携を図るとともに看護師や全職員で支援している。 事業所では看取りの事例発表を昨年、つくば国際大学で行うなど、重度化した場合や終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルをもとに、急変時や事故発生時に適切で迅速な対応ができるようしている。救命講習会を消防署の協力で開催し、心肺蘇生法やAEDの使用方法を学ぶ機会を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の総合訓練を実施、入居者、入居者家族、地域住民、職員も交えて実施している。	防火訓練を年2回同一法人施設と合同で行っている。 消防署指導のもと、消火栓からホースをひき地域住民と一緒に放水訓練を行った。 災害に備え事業所では一日分の缶詰と飲料水を備蓄しているが、それ以外は同一法人の特別養護老人ホームから応援が得られることとなっている。	夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、避難訓練により多くの地域住民の参加が得られるよう呼びかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の入職時には、接遇や高齢者への対応を学ぶ機会を設けている。記録物や個人情報の保管場所を定め、使い終えたら必ず元の場所へ保管するよう、職員1人ひとりが意識している。また、個人情報の取り扱いについて説明を行い、 同意書に署名し 十分な理解をもって取扱いを行っている。	職員は接遇の研修を受けているほか、言葉遣いに配慮し利用者を尊重した支援に努めている。 個人情報の使用承諾書を準備するとともに、面会票は利用者ごとに作成するほか、個人情報の書類の管理に留意し外部に漏洩しないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をあらわせるように、話しかける時は前方より1人ひとりの目線に合わせて、ゆっくりとしたペースで話しかけるようにすることを徹底している。また、自分で選んだり決定することが出来るよう支援し、一つ一つの事柄を入居者が納得した上で出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのアセスメントをもとに、したいことや出来ることを聞き出し、それが叶うように支援している。自分の思いをうまく表現できない入居者に対してもアセスメントをもとに、本人の嗜好や今まで行ってきた事柄から良い表情をされている時の事柄を行ってみたりし、再度アセスメントと実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな物や馴染みの衣類を選ぶ事が出来ない入居者に対しては、好きな色や形などを考慮し、入居者と一緒に衣服を選び、おしゃれを楽しめるよう支援している。また、家族から了解を得て、希望のある方に関しては近隣の理美容室へ通えるよう努めている。他にも訪問理美容や、ご家族による散髪などそれぞれに合った形で整容できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は買い物から調理・盛り付け・配膳・後片付けまでが、それぞれの入居者が能力に合わせ、分担し参加している。	職員はユニットごとに献立を作成し調理している。 利用者はできる範囲で味付けや盛り付け、食事の準備を職員と一緒にしているほか、皿洗いを率先して行う利用者もいる。 職員は利用者と一緒に食卓を囲み楽しい食事となるよう支援している。 家族等も参加してバーベキューを行うなど、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の体調によって食事量の低下がみられる時はチェック表を作成し、一日を通して摂取量のバランスがとれるよう注意している。必要に応じて水分チェック表も用い、摂取量が少ない時には促したり、取りやすいようにゼリー等を提供したりして工夫している。また定期的に栄養士に献立を見てもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの出来る事出来ない事を把握した上で、夕食後には歯磨きが出来よう促し、夜間は入れ歯洗浄剤での洗浄を毎日行っている。また、必要に応じて歯科医師による往診を受けることが出来るように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居時から一定の期間は、排泄の時間や行きたい時のサインなどをチェック表に記入し、個々のパターンを把握できるように努めている。身体状況で昼夜紙オムツ対応の入居者もいるが、1日1回時間を決め、トイレでの排泄が出来るように取り組んでいる。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らいトイレ誘導をしている。 紙おむつ使用の利用者にも時間を決めてトイレでの排泄を支援しているが、排泄チェック表を整備するまでには至っていない。	排泄チェック表を作成し、日常の健康管理と排泄の失敗軽減に活用することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居前に下剤を使用していた方も、入居後はなるべく医療機関で処方される薬を使用しないよう取り組んでいる。日々の食事は繊維質の多い物や乳製品を取り入れ、運動にも作業をしながら自然に出来るようにしている。ヨーグルトや排便を促す漢方入りのゼリーを毎日作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日や時間帯を設けておらず、午前でも午後でも入りたい時に入ることができるように支援している。入浴に対して拒否がある方でも、その人の生活歴や好む話をして、本人が気持ちよく入浴できるように支援し、入浴剤やゆず湯などで入浴を楽しめる工夫をしている。入浴日の間隔が空き過ぎないように、チェック表を用いている。	入浴は曜日や時間を決めてしまわずに利用者の希望にそって支援している。入浴チェック表で入浴の間隔が空き過ぎないように留意している。入浴拒否の利用者にはタイミングを見て誘い直している。隣接しているデイサービスの大浴場の利用も可能で、入浴を楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共同生活の中でのストレスに配慮し、自室でゆっくり過ごしたりできる時間を設けている。食堂と居間の間にもアコーディオンカーテンを設置し、共有スペースにおいても空間を仕切る事ができる。1人ひとりの睡眠時間が確保出来るよう、入居者のペースに合わせた昼寝時間を設けたり添い寝等をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬情を冷蔵庫に貼り、いつでも目が通せるようにしている。薬が変更された場合や、注意事項などは、看護師から直接伝達し、連絡ノートにも記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの今までの生活歴ややりたい事を尊重し、生きがいを持って生活を送ることができるようにその人らしい楽しみ事や役割を見つけ、それが出来るように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームは自由にデッキや中庭に出られるように作られている。自宅の様子を見に行きたい、デイに遊びに行きたい、散歩に行きたい、などのご希望にそう事が出来るように努めている。	職員は利用者が近所へ買物に出かけたり、散歩ができるよう支援しているほか、留守宅を心配する利用者と散歩を兼ねて自宅へ見回りに行くこともある。 利用者は家族等と共に墓参りや外食に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理できる方に関しては、自分の財布を持っていただいている。それ以外の方は、基本的にホーム側で管理させて頂いているが、買い物や行事等でお金を使う機会を増やし、職員も入居者がお金と関わることでの効果や目的を理解している。また、そのような効果を目的とし、併設の認知症対応型通所介護事業所と協力し、金銭を取り扱うプログラムを実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人から手紙が来た時には、返事を入居者自身が出せるように支援している。電話をかけた受けたりすることが出来ない方でも、家族との電話の際急ぎでない場合などには、本人に代わって話をさせていただくなどやり取りをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にしながら、季節の飾り付け等を職員と入居者が一緒に作成し、飾り付けしている。また、夏の暑い時期は天窓にすだれを設置し、光や温度を調整している。	広く明るい食堂兼リビングに続いて広い和室があり、冬には炬燵が設置されており、利用者は思い思いにお気に入りの場所で過ごすことができる。 中庭へはデッキを通過して自由に行き来ができるほか、デッキにはベンチが設置され、のんびりと日向ぼっこを楽しむことができる。 中庭には鳥の餌台があり餌をついばむ鳥の姿を眺めたり、事業所で飼育しているウサギに餌をやるなど自由に過ごせるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間の間はアコーディオンカーテンで空間を仕切れるようにしている。中庭やデッキにもベンチやソファを設置し、自由に居場所が選択できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅を訪問し、本人の自室を見させていただいている。入居となると、新しい家具や物を買おうとされる家族が多いため、使いなれたものや好みの物を持ってきていただく事が大切だと説明させていただき、場合によっては訪問職員と家族と相談しながら持参していただく物を決めている。	利用者は居室に使い慣れた家具や馴染みの物品を持ち込んでいるほか、居室は畳敷きとなっており布団を敷いたり、ベッドの使用も可能なので個人の好みで居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーにするのではなく、玄関、中庭に出るウッドデッキには転ばない適度な段差をつけている。手すりも開所当時は必要最低限のものとしていたが、グループホームでの重度化と終末期までの利用の意向が増加していることもあり、自立支援につながるためにも設置を増やした。また、段差には目で見分ける段差のしつらえをしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム どんぐり荘

作成日 平成22年7月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、避難訓練により多くの地域住民の参加が得られるよう呼びかける。	夜間を想定した避難訓練の実施及びより多くの地域住民が参加できるよう体制を整える。	施設で実施する避難訓練に夜間を想定した訓練を取り入れる。訓練実施の際に地域の人々に声をかけ、消火訓練や避難誘導訓練、AEDの使用方法などの訓練を今後も一緒に継続して行うことで、地域住民の参加増大に努める。	6か月
2	43	排泄チェック表を作成し、日常の健康管理と排泄の失敗軽減に活用する。	センター方式D3シートを活用し、日常の健康管理と失敗軽減に努める。	センター方式D3シートを活用し、入居者の排泄パターンの把握・観察・評価を行い、健康管理・失敗軽減に努める。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。